

# 熱性けいれん

## ①

熱性けいれんのあれこれ。  
まずは2回に分けて説明します。



# 熱性けいれんとは？

- 生後6ヶ月～60ヶ月（5歳）までに起こる
- 38℃以上の発熱に伴う
- 発作性疾患

発作性疾患 = 「けいれん」はもちろん  
「非けいれん性」の発作も含まれます

ただし、髄膜炎や脳症など明らかな原因がないもの、てんかんと診断されている方は熱性けいれんとは言いません



# 熱性けいれん重積

発作が

30分以上続く場合

30分以上意識が戻らずに

繰り返す場合

を重積状態と言います



重積状態は脳障害を起こしうる状態、長期的な後遺症に注意が必要な状態、と言われていきます。慎重な対応が必要です。





# すぐに救急車？

5分以上続くけいれん



は救急対応



熱性けいれんの多くが10分以内に自然に止まります。

逆に、それ以上続く発作は自然には止まりにくく、病院での治療が必要かもしれません。



# また起こる？

再発率は30%

(3人に1人弱ですね。まあまあ多いですね。)

再発しやすいのは・・・

- ①きょうだい、両親に熱性けいれん
- ②1歳未満の発作
- ③発熱後1時間以内の発作
- ④39°C以下の発作



①～④のどれかが当てはまる場合の再発率は2倍になると言われています

# 将来てんかんになる？



9割以上

てんかん発症はありません

「熱性けいれんのくり返し」

イコール「てんかん」

でもありません

とはいっても、いろんな「条件」も  
あります。

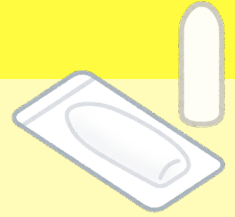
ご心配な場合は、一度専門医にご相談  
ください。



# お薬について

## 解熱薬

残念ながら**解熱薬**でけいれんは**予防できません**が、お子さんのしんどさを軽くしてあげるのに使用していただくのは問題ありません。



## 抗アレルギー剤

鼻水、鼻炎、花粉症でよく使う**抗アレルギー剤の一部**はけいれんの持続時間を長くするかもしれません。**処方するDrに熱性けいれんのことを伝えましょう。**



# 予防接種はできるの？



## できます

熱性けいれん、特にワクチン接種後の熱性けいれんのお子さんでも接種は可能です。

インフルエンザは熱性けいれんが多いです。  
**熱性けいれんのあったお子さんはより積極的なワクチン接種をおすすめします。**

高砂市は加古川市、播磨町、稲美町、明石市の接種券でも接種可能です。  
ご心配な方はご相談ください。





# まとめ



熱性けいれんの1回目。けいれんは目の当たりにするとびっくりするし怖いですよ。

たしかに重積状態や急性脳症など心配なこともあります。むやみに恐れる必要もないのも事実。また、ワクチンのことなど誤解も多いように思います。予防で有名なダイアアップ®についてはまた次回。



最後まで見ていただきありがとうございました